

No.9 別紙

1 活動名 ストップ気候危機！自治体議員による気候非常事態・共同宣言の会 後期オンライン連続セミナー 参加

2 研修の目的

(1) 本市における課題

まったなしの気候変動対策、全国の自治体が気候非常事態宣言をおこなうなか、本市においても宣言が待たれる。

(2) 研修の必要性 二酸化炭素排出量削減のための具体的な施策と取り組みの推進が必要である。

(3) 研修項目 研修内容に同じ

3 研修内容

(1) 日時 令和2年10月6日（火）、11月4日（水）、11月18日（水）

(2) 会場 オンライン（ZOOM）

(3) 出席者 1名 神津ゆかり

(4) 内容

ア 自然災害に自治体から備える 講師 あんどうりす氏（アウトドア防災ガイド・女性防災ネットワーク東京呼びかけ人）

イ コンパクトなまちづくりと公共交通 講師 田中信一郎氏（元長野県職員）

ウ 石炭火力発電所を地域からやめる 講師 山本元氏（気候ネットワーク主任研究員）

(5) 成果・所感等

◎自然災害に自治体から備える

地球温暖化で水害、巨大台風、土砂災害など、大規模災害に見舞われる回数が増えている。女性の視点で防災対策をレクチャーするあんどうりす氏は、全国の自治体を作るハザードマップの監修をはじめ、わかりにくい防災ワードをわかりやすく言い換えて説明するなど、女性ならではの視点、母親として子育て中に気がつくポイントなど、改めて防災、避難準備の大切さを知ることができました。

◎コンパクトなまちづくりと公共交通

少子高齢化社会で、空き家や荒廃地が点在する問題や、公共サービスやインフラの老朽化に直面する地方都市において、誰もが安心して安全に自分の望む暮らしができるためのまちづくりのデザインの考え方を学びました。ドイツなど、ヨーロッパや、富山市などで進められている「コンパクトシティ」は、バス停や駅、飛行場などを結ぶ交通網と、住宅（町）がリンクしています。「住みにくい」「不便」な地区が、「住みやすい」「便利」な地区へと変換シフトするヒントがありました。

◎石炭火力発電所を地域からやめる

石炭は、化石燃料の中でもLNGや石油に比べてCO2排出量が多い燃料です。世界最高効率の高効率発電であっても、CO2の排出は石油火力発電並で、LNG高効率発電の2倍程度です。気候変動

対策をすすめるためには、石炭燃料を止め、再生可能エネルギーなどCO2排出の少ない発電方法や省エネにシフトし、石炭火力発電の設置計画を見直すことが必要。

石炭火力発電の10の特徴

1. 石炭火力発電所は最大のCO2排出源
2. 石炭火力発電所は、空気・水・そして体を汚染する「水銀」の最大の排出源
3. 石炭火力発電所は健康被害を引き起こす
4. 石炭の採掘は自然破壊を引き起こす
5. 石炭火力発電所は大量の石炭灰を排出する
6. 石炭火力発電所は大量の水を使用する
7. 炭鉱は水質汚染の原因になる
8. 石炭輸出のためのインフラ整備は自然環境や住民の生活の破壊を招く
9. 石炭が再生可能エネルギーの普及の妨げになる
10. パリ協定を踏まえ世界では脱石炭・低炭素への流れが加速している

4 政務活動費

- (1) 使途項目 研究研修費
- (2) セミナー参加費 1000円